

総合技術研究会 2025 筑波大学

○羽子岡 仁志
産業科学研究所 技術室 工作班

1. 派遣先の機関名および派遣期間

派遣先: 筑波大学筑波キャンパス(茨城県つくば市天王台 1-1-1)

派遣期間: 2025 年 3 月 5 日(水)~7 日(金)

2. 派遣用務

筑波大学で開催された「総合技術研究会 2025 筑波大学」へ参加し、技術職員間の情報交換、業務改善や技術・技能向上に関する情報収集を行う。

3. 出張の概要および成果

出張概要

本研究会では、全国から集まった大学等の技術職員により、様々な分野における技術的な取り組みについて口頭発表やポスター発表が行われ、活発な議論が交わされた。また特別講演として「筑波大学のコアファシリティ戦略と技術職員の活躍促進に向けた組織整備について」、「睡眠の謎に挑む〜原理の追求から社会実装まで〜」「ナンセンスを具現化する明和電機のエンジニアリング思考」という講演があった。自身は、主に研究・実験装置の運用方法や安全管理に関するセッションを中心に、口頭発表およびポスター発表を聴講し、関連分野の情報収集に努めた。

主な成果

- 口頭発表において、NMR 装置のピットに換気装置を設置している機関の事例を知った。当センターには未導入の設備であり、安全管理の観点から今後導入を検討する価値があると考えた。
- ヘリウムデュワーの転倒防止を目的として開発された特殊キャスターに関する発表を聴講した。凹凸路面での安定性は向上したものの、平坦路面で速度が出やすくなり、結果的に転倒事故が発生したとの報告であった。安全対策が予期せぬリスクを生む可能性について深く考えさせられた。
- ポスター発表では、鹿児島大学による地域貢献活動の事例(桜島の火山灰を鋳型に、地元の錫を用いた鋳造体験)が印象的であった。地域資源の活用と参加者(家庭)への配慮が両立されており、大変参考になった。



特別講演の様子

4. 出張の感想および希望

今回の研究会では、他機関における装置運用、安全管理、地域貢献など、多岐にわたる取り組みを知ることができ、大変有意義であった。特に、全国規模での技術職員間の交流は、新たな視点を得る良い機会となった。また安全対策の難しさや奥深さ、そして地域に根差した活動の創意工夫に感銘を受けた。

今回の出張で得られた知見、特に NMR ピットの換気設備については、具体的な情報をさらに収集し、当センターでの導入の実現可能性について検討を進めていきたい。